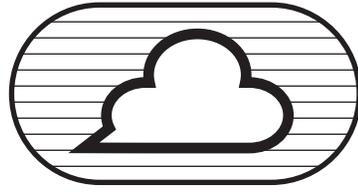


# 機能性中心に生き残り

## 発 泡 酒



くもり

新ジャンルが登場してからユーザーの流出が続いて下落傾向となり、18年上期も8・4%減。機能性をうたった商品に注目が集まるが、広告投資も抑え気味でやや厳しい状況となっている。17年の酒税法改正でビールの要件が変わったことから輸入発泡酒の一部がビールに変更されている。26年ビール類酒税一本化で存在意義が問われるとも言われるが、ロイヤルユーザーも多く自由な発想で商品開発

を行える余地が大きく、ロイヤルユーザー動向に合わせた商品展開や囲い込みが生き残りの力ギとなりそうだ。

### 発泡酒課税数量の推移

国税庁調べ

